

平成29年度  
玉川地域包括支援センター  
「地域とのネットワークづくりについて」

## 平成29年度の目標

- ▶ 玉川中学校区の高齢者やその家族、住民、商店や会社、高齢者を支援しようとする医療・福祉・介護に携わる専門職、団体に高齢者の社会参加への理解と、玉川地域包括支援センターの活動を知ってもらうよう働きかけ、ネットワーク構築に努める。

# 地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る（南笠東学区） その1

- ▶ 7月 南笠東学区まちづくり協議会 の 住民参加型事業「夢運河」のメンバーとして参加。今後、会議や行事が継続していく。地域の学校や企業、大学とのつながりもできた。
- ▶ 8月 南笠東学区社会福祉協議会 「健幸なまちプロジェクト推進チーム」に参加。年間通して、何度か会議、イベントがあり、学区の町内会長や地域で活躍されるメンバーとの顔見知りの関係ができた。
- ▶ 9月 南笠東学区医療福祉を考える会議 にて 地域資源マップが完成。全戸配布を民児協の協力でできた。地域の企業などとの関わりのきっかけができた。

# 地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る（南笠東学区） その2

- ▶ 10月 南笠東学区合同フェスタに参加。民児協との合同寸劇。認知症高齢者との関わりについて啓発しながら、人付き合いのあり方について問題提起した。
- ▶ その他、敬老会、市長とまちづくりトークのコメンテーター、福祉懇談会での発表など、学区の重要な行事にスタッフ側で参加できた。
- ▶ 民児協と協議を重ねるうち、「合同バースデイ訪問」が現実となった。見守りネットワークに向け一歩前進した。
- ▶ イベントで啓発の効果もあるが、それ以上に、準備段階で関わりをもつことで、支援者同士の絆が生まれることの方が効果大きい。

# 地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る（玉川学区） その1

- ▶ 10月 第1回玉川学区医療福祉を考える会議開催。地域の課題について話し合うことができた。毎回この会議のニュースを作成し、参加者に配布し、各所属にて報告をしてもらえることになる。町内会の回覧にもしてもらえらる。
- ▶ 1月 第2回玉川学区医療福祉を考える会議開催。情報がたくさんあるものの、必要なひとに届いていないなど話し合いをしました。そして、助けてといえる地域づくりという目指すべき方向が共有できました。
- ▶ 3月 桜が丘町内会として認知症サポーター養成講座を新旧の役員向けに開催していただきました。

# 地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る（玉川学区） その2

- ▶ 平成30年度の玉川学区行事に地域包括支援センターの役割について出前講座をしてほしいと、たくさんのご依頼をいただきました。
- ▶ 医療福祉を考える会議立ち上げなどを通して、各団体関係者と話をする機会が増え、玉川学区では急速に地域包括支援センターの認知度があがったと感じられます。

# 地域における様々な関係者のネットワークの構築を図る

(口コミにより出前講座の依頼が増加、出前講座を通して地域の支援者とつながる)

- ▶ 東南笠町内会（独居高齢者のために）
- ▶ のじわくわくサロン（老後の備えについて）
- ▶ 玉川学区社協（高齢者の健康づくり）
- ▶ 笠山町内会夏祭り（包括PRステージ）
- ▶ 御林山いきいきサロン（包括の役割について）
- ▶ わいわい会（転倒予防について）
- ▶ 南笠三町敬老会（介護予防の体操）
- ▶ 南笠東学区社協ふれあいサロン（認知症啓発寸劇）
- ▶ 野路小林ふれあいサロン（包括の役割について）
- ▶ 野路町ふれあいサロン（包括の役割について）
- ▶ 南笠ニュータウン町内会サロン（認知症について）

# ネットワークづくりで大事にしていること

～地域の支援者自らが考え、行動してもらおうように～

- ▶ **地域にとって必要とされること**（地域の方の目に留まるか）
- ▶ **自立支援**（地域の支援者と課題を共有し、ネットワークの大切さを意識してもらうところに重点をおく。包括が主役ではないことを自覚する。）
- ▶ **啓発**（「思いがあれば、輝きを放つ」その魅力をまずは包括から伝える。思いのある方同士が引き寄せられるように。お願いするのではなく、自然につながりが広がるように。）
- ▶ **過程を大事に**（失敗したら意味がないという意識ではつながりが途切れてしまう。一緒に悩むことができる関係づくりを大切にする。）